

遊休地をなくし美味しい智頭ブランド米を作るぞ！！

智頭町 認定農業者 草刈 章博

1. はじめに

私は、会社勤めの傍らで所有する8aの水田で元気の良い稲作りを楽しんでいました。当時は共同購入の歩行式2条田植機と歩行型で手動の水田除草機を用い、秋には天日干した稲をハーベスターで脱穀した美味しい米を我が家で消費し、余った米は友人にプレゼントをしていました。しかし、1995年頃から高齢化の波が徐々に押し寄せ、近隣の圃場の田植を受託したのを契機に、稲刈り・乾燥・調製も少しずつ増えてきました。それに伴い、田植機・コンバイン・乾燥機・籾摺り機・米選機などを導入し、15坪の作業場と15坪の農機具庫も建築して対応しました。また、プレゼントしていた米も「美味しい」と徐々に口コミで広がり、販路も広がりました。

しかし急激に拡大した需要に応えるうちに保有米も不足し、販売米の栽培を検討するようになりました。

そして、農業に興味を持った頃から、稲の持っている力を引き出すような稲作を目標に、代かき2回、田植まで田面を濁り水で覆った状態を保ち圃場面のトロトロ層作りと水持ちの良い圃場を作り、田植後に条間株間除草と根切りをかねてエンジン付き歩行型除草機を購入して減農薬、減化学肥料化を目指してまいりました。

現在、耕作面積は自作面積が55a、作業受託が300aですが、平成24年度には利用権設定180aが決まっており、農地の利用権設定や作業受託の打診が後を経たないのが現状です。

しかし、農作業委託を求められる圃場は1枚が平均10a程度で、圃場の数は増えますが、面積は広がらず、作業計画を立てるにあたり、作業効率の悪さには悩まされております。さらに、今年度の収穫期の乾燥・籾すり調製作業は乾燥機増設とそれに伴う排塵施設を付加した作業場の面積拡大を図らないと処理できない状況です。

以上のような経緯より、これらの経営課題を解消するためには減農薬・減化学肥料化の推進に必要な条間株間除草ができる大型の多目的6条田植機・除草機、そして水持ちの良い圃場を作るための畦塗機と水田整地機械（ロータリーハロー）・圃場床の均平化作業に必要なディスクロータリー、そして作業時間短縮などの効率化をするためにはトラクターの大型化が欠かせません。

あわせて、当初新築した15坪の作業場も手狭となり経営拡大を図るためには塵処理室を含めた50坪程度の作業場が必要となります。

チャレンジプランで導入する作業場、機械により、高齢化社会に対応し遊休地をなくして耕作放棄地を出さず農地集約を図り、美味しい智頭米ブランド化の推進と販売拡大をして地域社会への貢献と環境に優しい農業経営を地域へ拡大します。

最後に、我が家では他業種で自営している歳の息子が農業への取り組みに賛同しており後継者として平成30年を目途に就農予定なので、今後の展望も明るく取り組みます。認定農業者として課題を克服し経営発展をして継承することを目指します。

2. 経営の現状と課題

1) 現 状

- ① 減農薬・減化学肥料米を生産しているが、自作面積が増加して今までの歩行型除草機での作業では追いつかない状況となっている。
- ② 水稻の受託作業は主に山田集落・横田集落・埴師集落だが、周辺集落からも委託したいという需要が増えている。
- ③ 米の販売は大阪、京都、鳥取市、智頭町内の個人へ行っているが、注文数が増え、米が足りない状態にある。
- ④ 智頭町の施策である智頭ブランド米への出荷数量が確保できない。
- ⑤ 作業受託の依頼が増えているが、農作業の効率を上げなければ受託面積を拡大することはできない。
- ⑥ 国の減反政策は遵守している。

経営耕地面積（平成23年度現在）

所有地（稲作）	10a
借入地（稲作）	80a
計	90a

作業受託面積（平成23年度現在）

耕起・代かき	300a
田植	350a
稲刈・乾燥・粃摺り	450a
延べ面積	1100a

2) 課 題

- ① 農業自由化 TPP の波も押し寄せている。自由化に備え、農業経営が成り立つよう、現段階から基礎固めを行っておく必要がある。
- ② 近年、各家庭で保有している小型の田植機とトラクターを操作できない年寄りが増えている。5年後は、周辺集落で農業従事者の激減が見込まれることから、今後はさらに高齢者の作業委託が増加する。
しかし、受託地の所在範囲が広がり、移動に時間を要し、また単位面積が小さく圃場数が増えることで単位当たりの作業の効率化を進める必要がある。
- ③ 昨今の食の安全性を求める消費者志向を反映して周辺集落での減農薬・減化学肥料化の需要が高まり、有機質肥料の使用拡大、減除草剤指向などが顕著に現れている。しかし、減除草剤化には圃場と土作りから始め、除草作業など多くの時間と労力を掛けなければならないので個人ではなかなか難しく特に高齢者には人力の除草作業は困難をきたしている。今後これらの作業にも対応しなければならない。

- ④ 現作業場は乾燥機3台と粃すり機、米選機を設置しているが、15坪で天井が低いため、1台の乾燥機は床を50cm掘り下げて設置をしている。また、面積が狭いため1台の乾燥機はシーズン始めに移動して設置している。さらに、粃摺り機は作業都度移動して作業をしなければならない。今後予定している農地の利用権設定と高齢経営者の作業ニーズによる経営拡大を行うには作業効率の向上と乾燥容量の増量を確保しなければならない。増設に伴う乾燥、粃すり作業における塵対策を含めた50坪程度の作業場の新設が必要となっている。
- ⑤ 山間地域の圃場面積は平均10～15aで経営拡大による経営耕地面積の増加は平野部に比べ少ないが、乾燥単位はユーザー毎の乾燥になるため現有3台では対応が困難になっている。また近年、乾燥作業依頼も多くなっておりそのニーズにも対応するため、容量20aまでの乾燥機2台が必要となるので1台は補助事業で残り1台を借用で確保する。
- ⑥ 智頭米ブランド化による推進と、既存の販売ルートへの米供給が不足しているため、利用権設定を行い農業経営規模の拡大が必要となる。

3. 経営の改善目標と効果

1) 改善内容

① 多目的田植え機の導入

条間株間除草ができる多目的6条田植機・除草機を自費で導入して高齢化により作業が困難に成っている除草作業の受託と減農薬・減化学肥料化の推進を図り智頭米ブランド化に貢献、さらに田植え作業の効率を上げ経営規模の拡大を図る。

② 粃乾燥機の増設

受託作業の増大と自前で乾燥機が持てない地域農業者からの粃乾燥需要が増加している。智頭町の施策である智頭ブランド米を地区に広めるためには、これらの農業者の米もブランド化に作ってもらうことを推進するには欠かせない作業であり粃乾燥機2台を増設し合計5台にして智頭ブランド米を拡大し地域貢献する。

③ 作業場の新築

23年500aの経営耕地で作業場の限界に達した、更にこの作業場では作業委託者が粃すりと調製作業を行うが今の面積では一度に複数件の処理ができず能率が悪いので作業場面積を増やし、粃乾燥機5台分の領域を確保し排塵処理室を設けた作業場を新築して経営耕地900a規模に対応させ、地域に貢献し経営規模を拡大して智頭ブランド米を拡大させる。

- ④ 保管庫の増設
 美味しい智頭ブランド米・自己販売米を冷温保存して品質を確保して高付加価値のブランド米の販売で経営の安定を図る。
- ⑤ 大型トラクターの導入
 山間部の多くの圃場面積は8～15aで、数は多く移動は広範囲にわたっている。耕起、施肥、畦塗り、代かき、ディスクロータリー（耕起・天地返し）、トレーラー牽引の作業時間と移動時間を短縮し効率を上げ経営規模拡大を図る。
- ⑥ 販売経路の拡大
 智頭町の施策である智頭米ブランド化を推進して特別栽培稲作を確立し、美味しさと安全を売りにして、ブランド名を定着させ、更に現在の販路を拠点としたロコミを利用、さらにインターネットも視野に入れて美味しい米の拡売をする。
- ⑦ 美味しい稲作家の推進
 智頭ブランド米・特別栽培米を安定確保して智頭地区のブランド名を確立するために減農薬・減化学肥料で美味しい稲作家（いねさっか）を地域に推進する。

経営耕地の目標 [a]

	22年 実績	23年 実績	24年 目標	25年 目標	26年 目標	27年 目標
所有地	10	10	40	40	40	40
借入地	45	80	180	200	260	260
計	55	90	220	240	300	300

作業受託の目標 [a]

	22年 実績	23年 実績	24年 目標	25年 目標	26年 目標	27年 目標
耕起・代かき	250	300	350	350	500	500
田植	300	350	350	400	450	600
水田除草	0	0	40	80	150	200
稲刈・乾燥・籾摺り	350	450	450	450	470	600
計	900	1,100	1,190	1,280	1,370	1,900

米販売の目標 [kg]

	22年 実績	23年 目標	24年 目標	25年 目標	26年 目標	27年 目標
米販売（直売目標）	1,680	3,000	4,500	4,800	5,600	6,000

2) 事業効果

- ① 智頭地区の耕作放棄地の減少と作業受託件数増による農業収入の向上。
- ② 特別栽培米の取り組みによる米価の安定による農業収入の向上。
さらに作業委託先の米価安定によるTPP対策と安全食の確保
- ③ 智頭ブランド米・特別栽培米の販路確保により米販売収入の向上。

3) 具体的な取り組みと目標

持続可能な地域農業の実現に向けて、高付加価値型農業(農薬・化学肥料の節減及び土づくり)を普及し、農業経営の規模拡大と農作業の効率化を図り、遊休農地の耕作を含めた耕作と作業受託等、地域ニーズに対応した農業経営に努める。

(ア) 作業の効率化

- ① 作業場を新築し経営効率の向上を図る。
- ② 乾燥機を確保して業務受託・経営耕地の拡大を図り経営の安定化を行う。
- ③ 保管庫を増設して美味しい智頭ブランド米・自己販売米の品質を確保する。
- ④ 6条多目的田植機を自費で導入して田植作業の効率と除草対策を確立し特別栽培稲作を推進する。
- ⑤ トラクターの馬力アップを行い、圃場の均平化作業と各種アタッチメントを取り付けての作業の効率を上げ経営効率の向上を図る。

(イ) 高齢化に伴う地域社会のニーズに応える

- ① 利用権設定契約で農業経営規模を拡大する。
- ② 農業経営放棄耕地の作業を受託する。
- ③ 遊休地を活用する。

(ウ) 高付加価値を追求する

- ① 『智頭米ブランド化検討会』と協調し智頭ブランドを確立して販路を拡大する。
- ② 田植後の除草作業の効率化を確立して、減農薬で減化学肥料の環境にやさしく安全な特別栽培稲作を地域に拡大する。
- ③ 収穫後に圃場の除草と土づくり、床の均平化のためにディスクロータリーで天地返しをおこなう。
- ④ 除草対策・水漏れの対策のため畦塗り作業をおこなう。
- ⑤ 除草対策のための水持の良い圃場とトロトロ層作り、さらに作業効率向上のためロータリーハローを用いて代かきをおこなう。

事業内容と役割分担

	24年	25年	26年	27年	実施主体
多目的田植機6条	○				本人
作業場新築	◎				本人・県・町
冷蔵保管庫(108袋)		◎			本人・県・町
籾乾燥機(20石)		◎			本人・県・町
籾搬送プラント		◎			本人・県・町
ディスクロータリー		◎			本人・県・町
トラクター34PS			◎		本人・県・町
ロータリーハロー			◎		本人・県・町
畦塗機			◎		本人・県・町
販路拡大	○	○	○	○	本人
土作り工法の拡大	○	○	○	○	本人
経営耕地拡大(利用権設定)	○	○	○	○	本人・地域
耕作放棄地の管理	○	○	○	○	本人・地域
作業受託面積拡大	○	○	○	○	本人・地域
特別栽培稲作開始・拡大	○	○	○	○	本人
水田除草作業受託拡大		○	○	○	本人
特別栽培を地域へ拡大			○	○	本人・地域

4. 支援事業の内容

(千円)

項目	24年	25年	26年	負担区分
作業場新築	8,370			県 1/3 町 1/6 本人 1/2 (税抜)
冷蔵保管庫(108袋)		505		
籾乾燥機(20石)		1,238		
籾搬送プラント		771		
ディスクロータリー		610		
トラクター34PS			4,171	
ロータリーハロー			886	
畦塗機			838	
合計	8,370	3,124	5,895	

以上